

九州森林管理局における 確実な再造林の実施に向けた取組

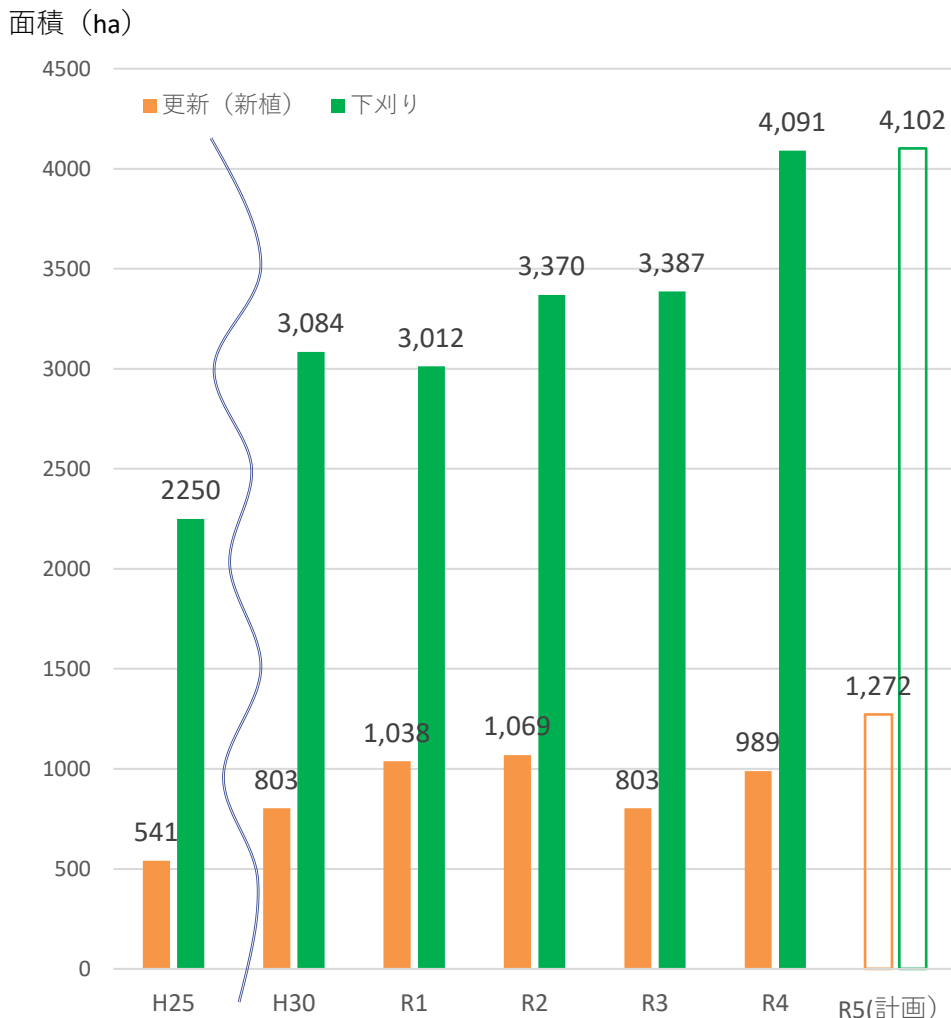
九州森林管理局

2023年11月14日

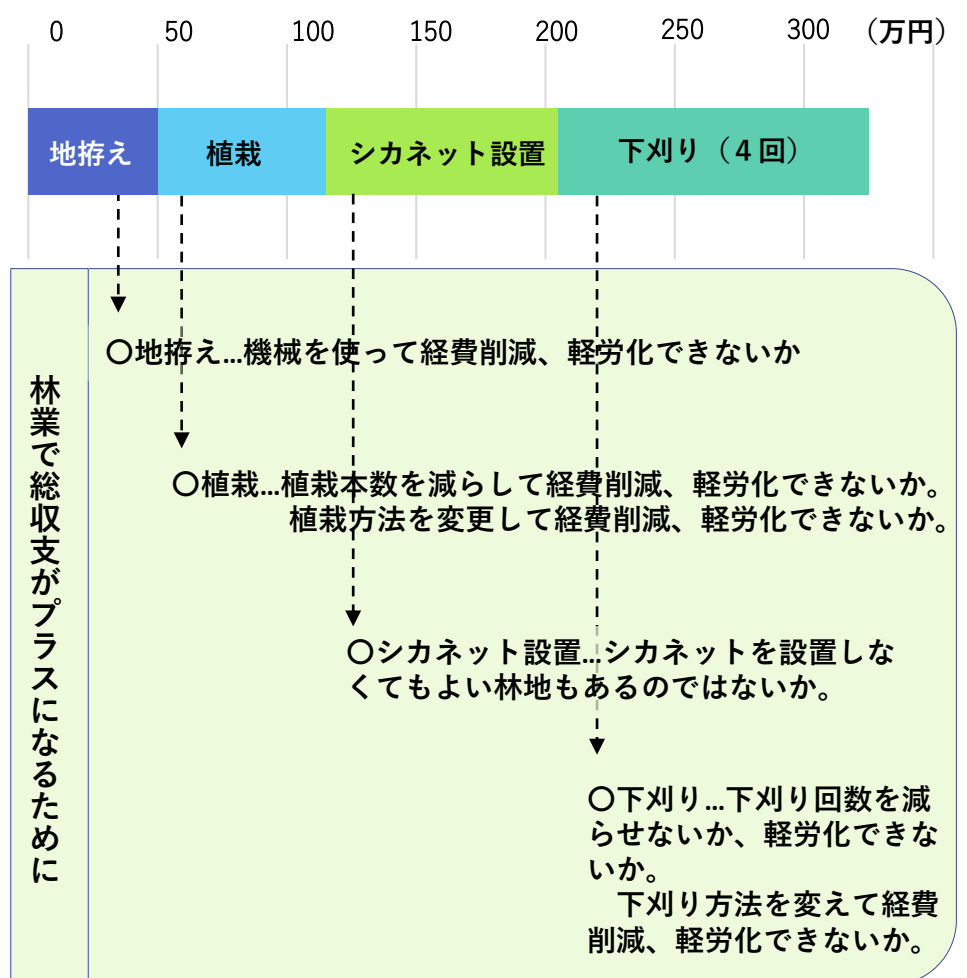
①九州森林管理局における再造林事業の現状

- 全国的にみても、近年の主伐面積の増加に伴い造林面積も増加。令和5年度計画の新植及び下刈面積は10年前の約2倍。
- 林業の総収支をプラスにするためには、造林事業費の削減を図る必要。

九州森林管理局における造林事業量の推移



九州森林管理局における造林事業費 (1ha当たり)



②九州森林管理局における造林コスト削減に向けた取組

(地拵え)



機械地拵え

- 伐採と造林をセットで行う一貫作業システムにおいて、機械等地拵え作業の工期調査を実施し、機械地拵えを可能に。

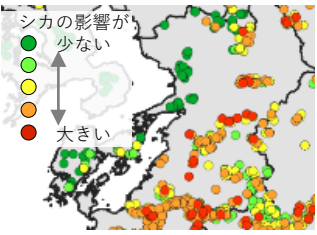
(植栽)



ドローンによる苗木運搬

- 従来は3,000本であった植栽本数を1,500～2,000本/haで実施（保安林では指定施業要件の下限值）。
- 従来の正方形植えから長方形植えを実施（歩く距離が減少）。
- ドローンによる苗木、シカネット等の造林資材の運搬の工期調査中。

(シカネット設置)



シカ影響簡易マップ

- 森林総合研究所と連携してシカによる植生への影響度を点数化し評価する手法を検討中。目指す目標として、シカネット設置の判断や重点的に捕獲するエリアの判断に活用。

(下刈り)



筋刈り

- 下刈り回数を4回から3回に省略（最終目標は2回程度）。
- 全刈りから一部刈らない筋刈りへ変更中。
- 従来より苗木が大きいコンテナ中苗を一部植栽し、下刈り回数を削減。